

## 画像電子学会 アレキサンダー・ベイン賞

画像電子学会はファクシミリ技術の進展と、産業としての振興を目指して1972年に創設された学会で、2012年に40周年を迎えた。その40周年記念事業の一環として、ファクシミリの発明者であるアレキサンダー・ベイン（英国）を讃えると共に、画像工学の発展並びに学会事業に顕著な功績のあった方々を顕彰するため、アレキサンダー・ベイン賞を創設した。受賞者にはアレキサンダー・ベインの肖像画を象ったメダルが記念品として贈られる。

このメダルの製作にあたっては発明家であるアレキサンダー・ベインの肖像画を保有する英国科学博物館からライセンスを取得し、さらにNTTの後援を得た。この第1回授賞式が5月17日にとり行われる。

ファクシミリは1811年スコットランドに生まれのアレキサンダー・ベインにより、1843年に発明され、特許登録されたが、一般ユーザの利用まで長期間を要したことから長らく『**Sleeping Giant**』とも呼ばれてきた。

一般向けの文書伝送用ファクシミリの普及は1972年の公衆電気通信回線の改正および1980年のG3ファクシミリの国際標準化により需要が増大した。昨年4月には30年以上もの長い間人類社会に貢献したことに対しIEEEよりマイルストーンの認定がなされ、ファクシミリ産業の隆盛に貢献したとしてNTTとKDDIの名が記念プレートに刻印された。